

大阪母子医療センターにおける アセスメント機能強化事業の 取り組みについて

泉州圏域拠点医療機関
令和3年度大阪府委託事業

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

子どものこころの診療科 平山 哲





令和3年度 大阪府委託事業

大阪府委託事業について

- ❖ 発達障がい医師養成研修
- ❖ 大阪府発達障がい専門医療機関とワーク拠点医療機関と登録医療機関の連携強化業務
- ❖ アセスメント機能強化業務





発達障がい医師 養成研修

令和3年度発達障がい専門医師養成研修

令和3年度の実施状況

- ❖ Covid-19の流行を鑑み、講義をe-learningで実施
- ❖ 講義内容は例年通り
- ❖ 本年度の受講希望者は小児科コースが41人
- ❖ 2回目以上の受講者は11人



講義内容

講義概要

○ オンライン講義

- 子どもの発達、病気、障がいについて
- 学校での実践的な取組について、発達障がい児者の就労について
- 医学的知識関係（診断および検査について）
- 医学的知識関係（発達障がいに関連する各種疾患 ADHD、LD、神経難病、虐待等）
- ペアレント・トレーニング、構造化、最新の知見 等

○ 集合研修

- 医学的知識関係（診断および検査について）
- 映像資料に基づいた事例検討 等



講師陣

講師陣（予定、50音順）

荒木 敦	氏	大阪旭こども病院
伊丹 昌一	氏	梅花女子大学
片山 泰一	氏	大阪大学大学院
小杉 恵	氏	大阪母子医療センター
酒井 佐枝子	氏	大阪大学大学院
永井 利三郎	氏	桃山学院教育大学
長富 義隆	氏	自閉症児支援センターWave
中西 真理子	氏	大阪大学大学院
新澤 伸子	氏	武庫川女子大学
西川 瑞穂	氏	かく・にしかわ診療所
花房 昌美	氏	大阪精神医療センター
平山 哲	氏	大阪母子医療センター
若宮 英司	氏	藍野大学 他



学習 マイページ

全てのタグ

キーワード入力

検索



絞込みなし

インフォメーション

よくある質問

環境設定

ヘルプ



47% 2021年度大阪府発達障がい専門医師養成研修 (小児科コース)

2022/03/01 ~ 2022/04/30



0% 発達障がい専門医師養成研修テスト用

2022/03/01 ~ 2022/04/30



50% 大阪府発達障がい専門医師養成研修・追加コンテンツ

2022/03/01 ~ 2022/04/30



令和3年度 大阪府発達障がい 専門医師養成研修

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

子どものこころの診療科 平山 哲

スクリーンショット

🕒 受講時間 | 00:00:32



Osaka Women's and Children's Hospital



3月27日時点の進捗状況

- ❖ 全コンテンツ受講修了者 11人
- ❖ 半数以上の受講者 14人
- ❖ 未受講者 5人





連携強化業務

大阪府発達障がい専門医療機関ネットワーク拠点医療機関と登録医療機関の連携強化業務

令和3年度の実施状況

❖ 医療機関から

- ❖ 診療についての相談 4件
- ❖ 緊急診療依頼の相談 1件
- ❖ 陪席研修の依頼 2件
- ❖ 事例検討会の参加依頼 1件



アセスメント 機能強化業務

特定の病院への受診の集中回避と負担減の取組を他の
医療圏域の拠点医療機関に示す事例を収集するため

初診の状況

- ❖ 当センターの2020～2021年の未就学児発達障がい専門外来の受診統計
 - ❖ 同時期全体初診者数 973件
 - ❖ これは発達障がい以外も含む総数
 - ❖ 未就学児初診者数 262件
 - ❖ この件数に対し、内容の分析を行なった
 - ❖ 主訴はいずれも発達障がいにかかるもの

初診待機の解消・軽減が必要か

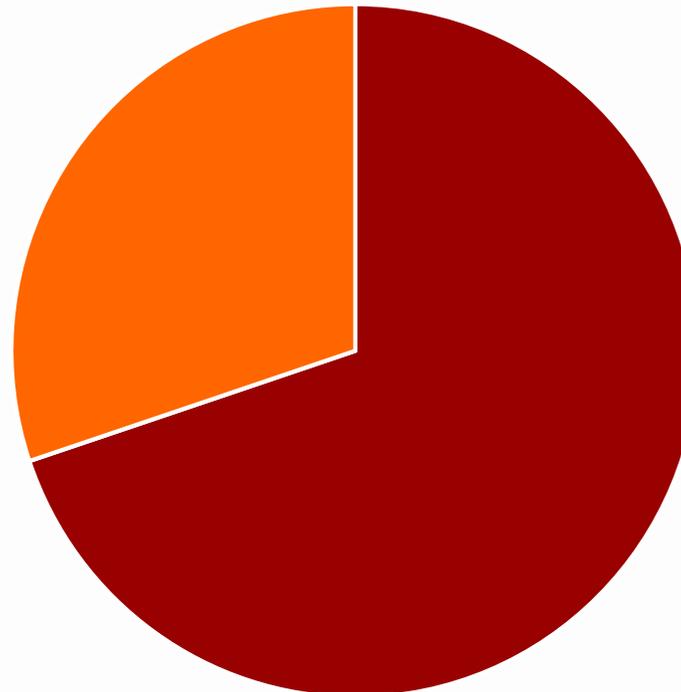
- ❖ 2022年3月1日時点で
 - ❖ 初診待機中央値 110日
 - ❖ 児童精神科領域で治療歴がないケースが半数以上を占める
 - ❖ 当センターにない機能を求めるケースも一定数あり（療育等）
 - ❖ 虐待など、独自の領域への対応も含む



初診の統計情報

♣ 男 183人

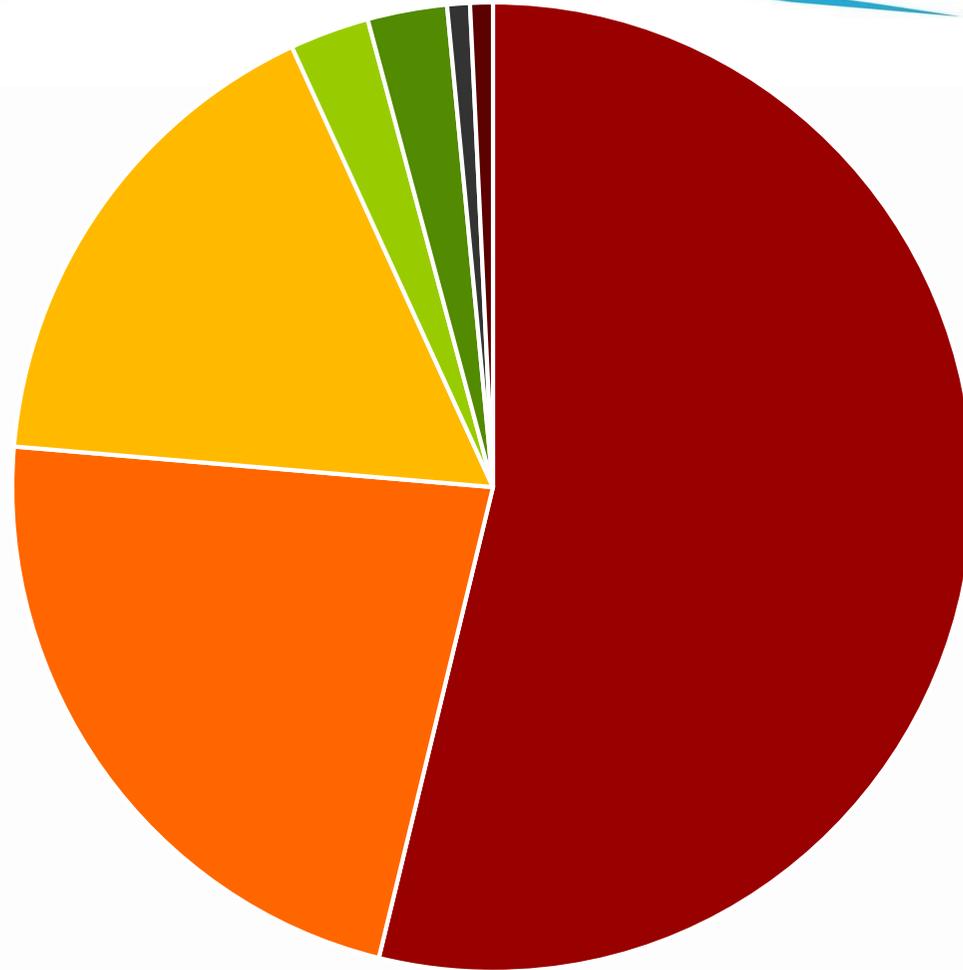
♣ 女 79人



■ 男 ■ 女



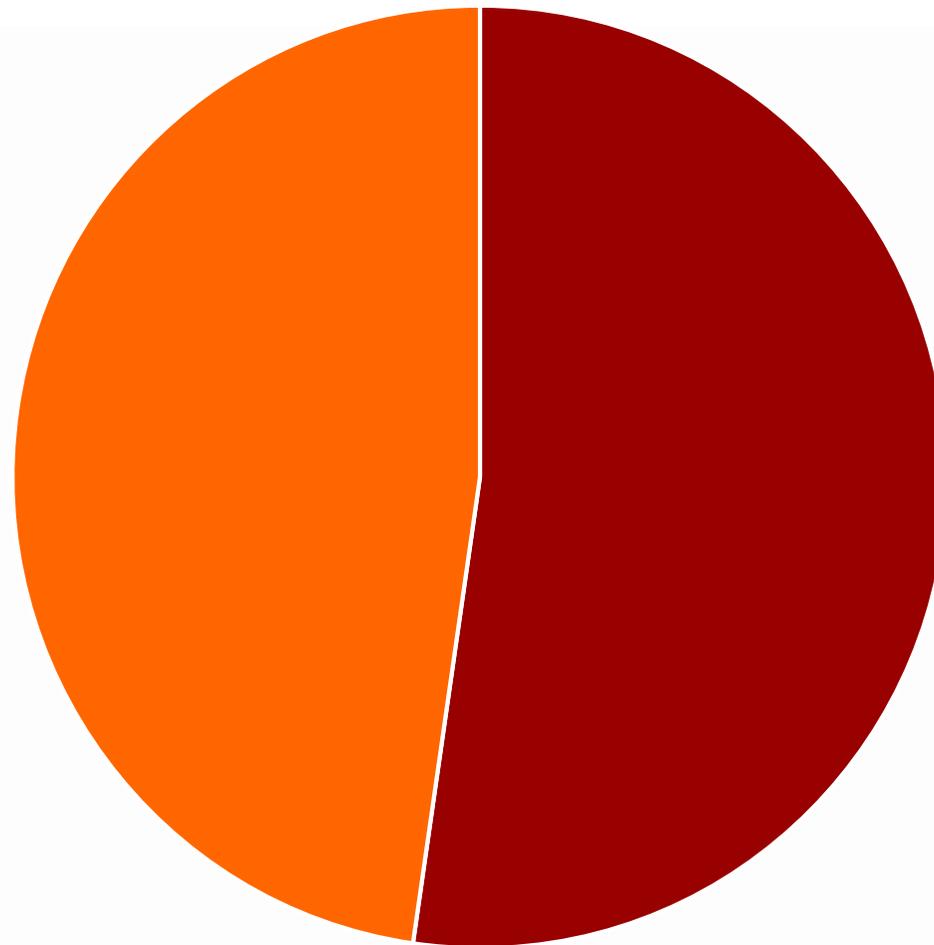
エリア別



■ 泉州 ■ 南河内 ■ 堺 ■ 大阪市 ■ 府外 ■ 中河内 ■ 豊能



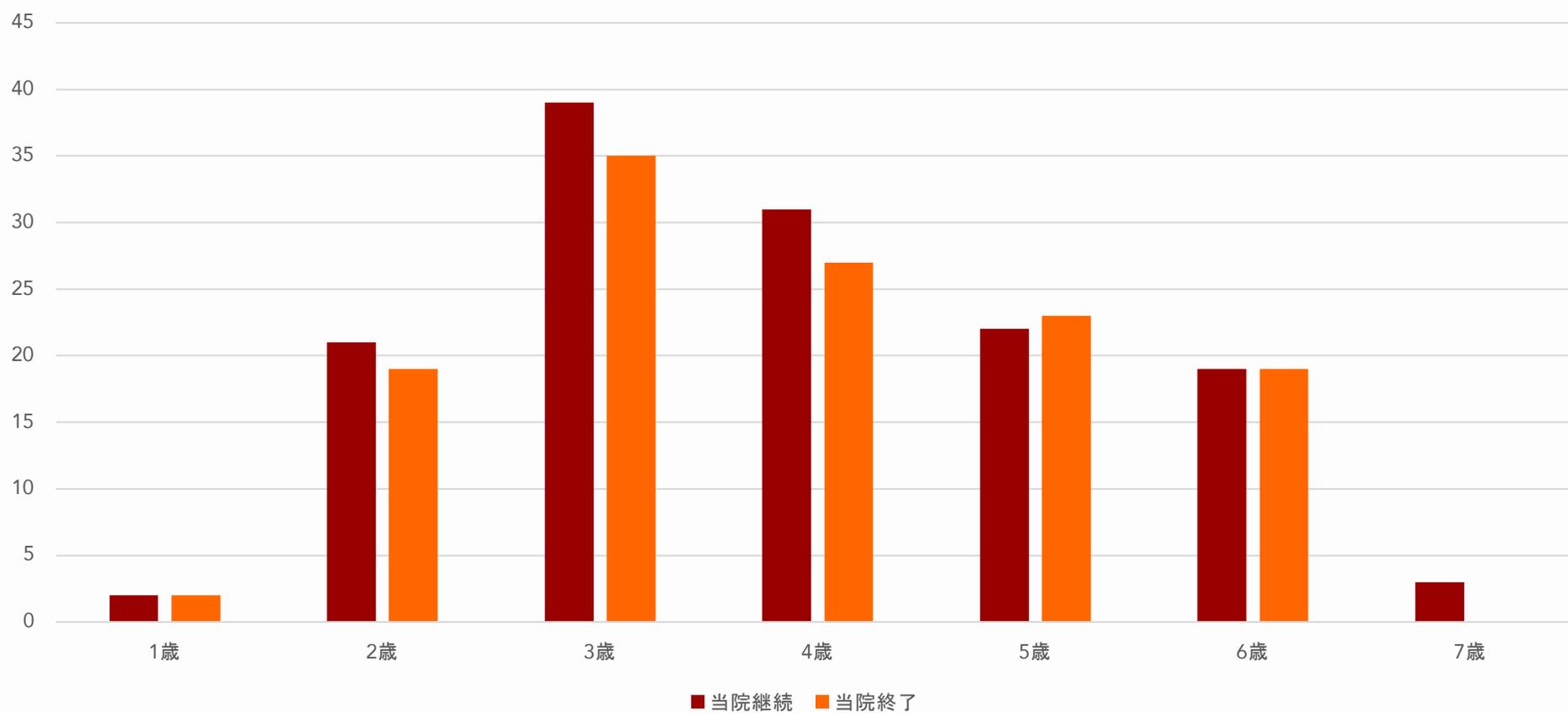
継続の有無



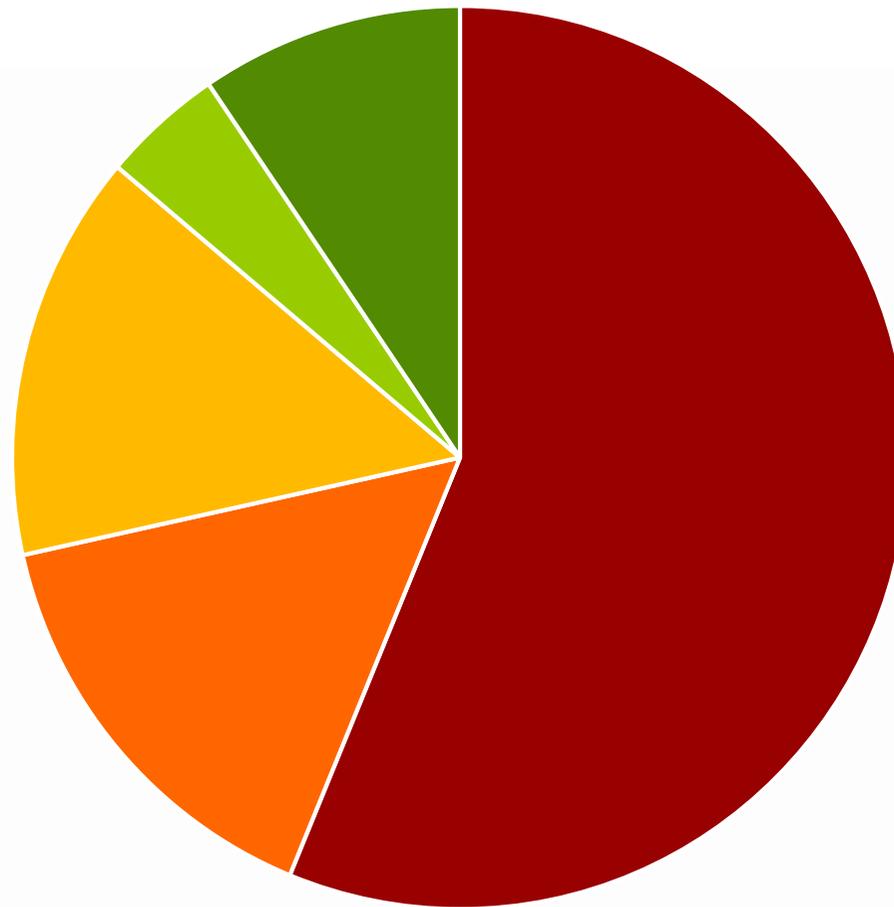
■あり ■なし



年代別の傾向



継続の内容



■ 相談 ■ 診断 ■ 保健センターに勤められて ■ 主治医として ■ 他



エリアの傾向- 1

❖ 【泉州地域の特色】

- ❖ 過去に検査歴ありが大半
- ❖ 保健センターからの紹介が大半（貝塚市が例外、クリニックが多い）
- ❖ 熊取町は継続ケースが多い
- ❖ 岸和田は幼児期後半のケースが多い（就学に向けて？）

エリアの傾向ー2

❖ 【南河内地域の特色】

- ❖ 地域によって、紹介元に差あり（大阪狭山・富田林は保健センターが大半、一方羽曳野・松原・藤井寺は保健センターは無し）
- ❖ 紹介元が保健センターの地域は検査歴が多い

❖ 【堺市の特色】

- ❖ 過去に検査歴なしが他地域と比べて多い
- ❖ 紹介元が色々、初診時期も広範囲



初診待機解消に向けての一取り組み

- ❖ 受診に来たうちの半数以上が継続診療となる
- ❖ 主訴の大半は、疾患についての相談
- ❖ 受診は地域による

- ❖ エリアごとに、継続的に関わる仕組みが必要
- ❖ 関わる範囲は、医療行為より福祉領域と思われる



仮説

- ❖ エリアごとに
 - ❖ 医療機関以外の機関が関わる仕組み
 - ❖ 医療機関と合わせて関わる仕組み
 - ❖ 長期的に関わる機関構築
 - ❖ 関わるために必要な情報の蓄積

入り口から中継ぎまでを医療機関が担う仕組みが望ましいのではないか



一つのアイデア

- ❖ すでにある地域の機関と連携しながら
- ❖ すでにある情報も活用しながら
- ❖ 医療機関で利用可能な情報を蓄積しながら
- ❖ それでいて診断に参考となるフォーマット

用意できれば、省力化、継続性になるのではないか
目標は、今あるサポートファイルの医療機関版・機関連携版へ
結果として、医療機関のみへの負荷が減るのではないか



聞き取りの一例

- ❖ 言葉についてお聞きします
- ❖ お母さんがはっきりと聞き取れる、お母さんと目を合わせて「ママ」と言ったのはいつですか

0歳

1歳

1歳半健診

2歳

- ❖ 3輪車を、一人で誰の手も借りずに5m以上走ったのは、いつですか

聞き手によらない質問方法



試行の結果

- ❖ A市保健センター保健師に依頼
 - ❖ 紹介状ではなく、聞き取りを保健師が実施
 - ❖ まとめたものを、医師へ情報提供
 - ❖ それをもとに、診察時は行動観察中心
- ❖ 診察の結果と方針を、保健師へフィードバック



実施の内容

- ❖ 試行として、5件実施
 - ❖ 事前に保健師が家庭訪問
 - ❖ 事例ファイル情報プラス追加聞き取り
 - ❖ このために必要な時間は30分～1時間
 - ❖ 書類記載でプラスアルファの時間あり



医療機関の変化

- ❖ 受診にかかる、医療者の対応時間
 - ❖ 診察について
 - ❖ 2時間から1時間へ
 - ❖ 診療録の記載について
 - ❖ 基礎情報記載の省力化に繋がる
- ❖ 2回目以降の診察について
 - ❖ 医療以外は保健センターが担う





今後について

令和4年度に向けて

- ❖ Covid-19下での研修の効果判定
 - ❖ 令和3年度の研修アンケートをまとめる予定
- ❖ 本年度実施した地域連携についての普遍化への取り組み
 - ❖ 事例を増やし、より詳細な変化の検討
 - ❖ 普遍化へ向けたフォーマットの詳細検討



